



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

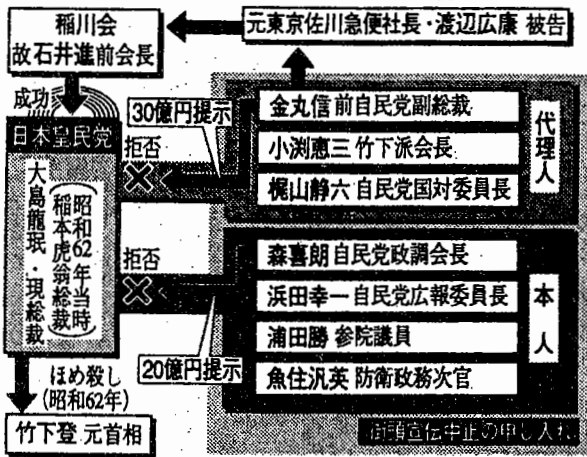
92.11.19 No. 3690

佐川・皇民党事件徹底究明！

自民党宮沢政権打倒！

暴力団仲介で決った首相!!

皇民党事件に登場する政治家



全国の市民団体・野党・弁護士グループなど計八団体が、政治資金規制法違反などの罪で東京地検に告発している、東京佐川・皇民党事件は、自民党政権の腐敗・墮落しきった姿と、汚職と利権の実態を改めて白日の下に晒している。

ほめ殺し中止に30-20億円

東京佐川からの金丸元自民党副総裁に渡された五億円献金と、「上申書」提出—罰金二〇万円という略式起訴に端を發したこの事件は、その前段での東京佐川渡辺元社長ら四名の商法特別背任容疑での逮捕—佐川事件公判での検事調書の中で、「皇民党」による竹下内閣成立前の「ほめ殺し」を止めさせるために、金丸、森政調会長ら七名の自民党政治家が、その「解決金」として、それぞれ三〇億・二〇億を提示し、「暴方団」にまで仲介を依頼していた事実内容が明らかにされるにおよび、全人民の怒りと怨嗟の声を

「三権分立」を破壊する

自民党支配の根底を揺さぶる、この事件に対し、自民党は「三権分立」の原則さえ踏み破り、なんと「名誉棄損」で東京地検の担当検事らを告訴すると露骨な介入策動を開始している。(九日段階でさすがに告訴は断念した模様であるが)

しかしながら東京地検による捜査は、ロッキード・リクルート・共和事件等でもそうであったように、事情聴取による容疑の認定は、「秘書がやったこと」「覚えていない」「全然知らない」などの詭弁によって暗礁に乗り上げ、またも巨悪を逃す経過に推移しようとしている。

事実上、政治腐敗そのものであり、自民党がいかに汚職と利権の拡大に血道をあげ、それを繰り返してきたかの「連続

佐川急便事件公判検事調書要旨

※自民党事件

①、昭和六二年六月八月、自民党代議士七名から、「金銭で解決できないか」と申し入れがあり、金丸(代理人)からは「三十億円」、森本人からは「二十億円」が提示される。皇民党側が拒否。

②、昭和六二年九月、金丸から、「中曽根(当時首相)による竹下後継指名がなくなるかもしれない」と言われ、渡辺広康(元東京佐川急便社長)が「石井(稲川会会長)に解決を頼もう」と提案。金丸も賛成。

③、同年九月三日、皇民党故稲本虎翁(先代総裁)に、石井進稲川会会長(当時)から街頭宣伝中止の申し入れ。

④、同年十月初め、石井から「田中角栄元首相にあいさつに行き『総理になりたい』と言えば、街頭宣伝を中止する」という皇民

した軌跡」ではありません。これほど悪徳暴慢な政府・自民党であるからこそ、貪汚汚吏がはびこり、政治「派閥抗争」に明けくれるのだ。

金権腐敗政治に人民の側から断を

古来、「人民を愛さない政権は滅びる」というが、片手に汚職と疑獄を抱き、もう一方の手で、「戦後政治の総決算」攻撃からPKO自衛隊海外派兵にまで行きついた悪政を揮う、自民党金権腐敗政治に断固として、人民の側から断を下さなければならぬ。

佐川・皇民党事件の徹底究明を！
自民党・宮沢政権の打倒に向け、怒りの全てを一一・二二全国総決起集会へ結集しよう！

党側の条件を渡辺元社長が金丸に電話。竹下、十月六日田中邸を訪問。同日、石井会長より「これで皇民党は今後、一切手を引く」という電話と、金丸からのお礼の電話が渡辺元社長に入り、「ほめ殺し」が終わる。

⑤、同年十一月六日竹下内閣発足。以上が検事調書からの竹下内閣発足までの抜粋である。日本の総理大臣決定という重大事項が、右翼の街頭宣伝に左右され、暴力団の仲介—東京佐川という政治と企業癒着体質の中で決められていくという驚くべき実態を示している。

今日のバブル崩壊—経済危機の状況と汚職・利権、権益確保のためのPKO自衛隊海外派兵は、その意味からも表裏一体のものを見なければならぬのだ。